

《担当者名》教授 / 小島 弘幸

【概要】

『予防医療学』では、病気にならずに健康維持・増進を図るため、治療のみにとらわれず、さらに進んだ疾病予防を目的とした医療をセルフメディケーションの立場から理解し、科学的根拠に基づく積極的な生活習慣改善法を構築し、地域保健に貢献できる薬剤師としての能力を培う。

【学修目標】

- ・健康と環境を予防医療の観点から考察し、健康の維持・増進および疾病の予測・評価・判断に必要な高度な理論を理解し、実践できる。
- ・医薬品の有効性と安全性の確保のために、薬物依存、急性薬物中毒など生活環境の中で重要な薬物についての健康被害と処置を学び、疾病予防に必要な高度な知識や情報を収集できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	公衆衛生総論 1	わが国の公衆衛生上の問題点を学び、予防医療学に向けた薬剤師の役割について説明できる。	小島 弘幸
2	公衆衛生総論 2	疫学調査の概要を理解し、全国的な調査例に基づき環境要因と疾患との因果関係について説明できる。	小島 弘幸
3	公衆衛生総論 3	生活習慣病の概念や各論を理解し、予防的対策やわが国の取り組みについて説明できる。	小島 弘幸
4	毒性学 1	異物の体内動態、異物代謝酵素とトランスポーター、化学物質の毒性発現機構について説明できる。	小島 弘幸
5	毒性学 2	重金属、農薬、工業用化学物質等の化学構造を理解し、毒性機序から中毒時の治療対策について説明できる。	小島 弘幸
6	毒性学 3	薬物中毒とその治療、急性中毒時の医療対策、化学物質の安全性評価について説明できる。	小島 弘幸
7	食品と健康 1	食品に含まれる有害物質について理解し、その有害事例から予防的方策について説明できる。	小島 弘幸
8	食品と健康 2	健康食品や機能性食品の概念を学び、その活用事例について説明できる。	小島 弘幸
9	テーラーメイド医療 1	ファーマコゲノミクス、薬物治療の個別化の現状と展開について説明できる。	小島 弘幸
10	テーラーメイド医療 2	トキシコゲノミクス、ニュートリゲノミクス、遺伝子レベルによる毒性予測、飲食物や健康食品との相互作用について説明できる。	小島 弘幸
11	環境と地域保健 1	北海道における水 / 空気を介した環境問題を例に取り、疾病発症のリスクと行政的な対策について説明できる。	小島 弘幸
12	環境と地域保健 2	北海道における食中毒事例を例に取り、疾病発症のリスクと行政的な対策について説明できる。	小島 弘幸
13	環境と地域保健 3	北海道における花粉症を理解し、それらの予防法と行政的な対策について説明できる。	小島 弘幸
14	環境と地域保健 4	北海道の風土病といわれる感染症・エキノコックス症を学び、現在の発症状況と行政的な対策について説明できる。	小島 弘幸
15	総括	予防医療における健康維持・増進の方策を構築し、予防医療薬学の担い手として地域の保健に貢献できる情報発信を実践する。	小島 弘幸

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

出席・態度(30%)とレポート(70%)により成績を評価する。

今回の授業において、提出されたレポートのコメントや解説を行うことで、さらに議論を深める。

**【教科書】**

なし

**【参考書】**

必要に応じてレジュメを配布

**【学修の準備】**

講義は双方向性の参加型形式で行うので、公衆衛生学、環境健康科学、毒性学の最新情報を十分に理解したうえで、講義に出席して下さい。

**【薬学部ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、並びに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知見を習得している。